

第 1 2 回三国演義学術討論会参加記

上田 望

＊

1999年9月15日より5日間、山西省清徐県の東湖賓館にて第12回の三国演義学術討論会が開催された。筆者は8年ぶりにこの学会に参加する機会を得たので、以下にその模様を報告し、あわせて会議の場でもさかんに論じられていた近年の三国演義研究の動向についてお伝えしたいと思う。

＊

このたびの第12回大会が開催された清徐県は、人口28万、山西省の省都太原から50キロ南に位置し、碧波蕩漾たる東湖を市の中心部に抱え、「湖城」「泉城」の美名をもつ風光明媚な地方都市である。清徐という地名を耳にしたことのない人も多いと思われるが、ここは知る人ぞ知る中国三大酢の一、老陳醋の生産地として名高い。従来、三国の学会はいずれも三国演義にゆかりのある都市が開催地に選ばれてきたが、ではどうして今回ここなのかというと、実は清徐は今、羅貫中故里として売り出し中のところなのである。この20年、多くの議論をよんできた羅貫中の籍貫の問題については後述することにして、さきに今回の討論会の出席者と日程を紹介しておきたい。

今回は、開催期間がちょうど多くの大学の開講時期とぶつかったため、大学関係者は少なかった。中国側からは学会の「領導」である劉世徳氏（中国社会科学院）、陳遼氏（江蘇社会科学院）、沈伯俊氏（四川省社会科学院）、胡世厚氏（河南省社会科学院）、今回の学会開催の実質的な責任者である孟繁仁氏（山西省社会科学院）ほか70名近い研究者が出席、外国からは日本の今泉恂之介氏（流通経済大学）と上田、台湾の陳益源氏（中正大学）、韓国の金曉民氏（北京大学博士生）が参加した。会議の日程は以下の通りである。

- 9月14日 登録と報告者の決定。主席団会議。
- 9月15日 午前中、開幕式と全体の学術報告会（4名が研究報告）。午後、引き続き全体の学術報告会（14名が研究報告）。夜、清徐県映画館で催されたクラシックの音楽会に出席。
- 9月16日 午前、午後ともにグループ討論。夜、山西電視台と中央電視台共同製作の連続テレビドラマ「羅貫中」を鑑賞。
- 9月17日 午前、清徐県の羅貫中記念館を見学、続けて葡峰山庄に羅氏祖塋を見学し、葡萄祭りの開幕式に出席。午後は堯城堯廟、老陳醋グループの工場、三国城を見学。夜、「羅貫中」の続きを鑑賞。
- 9月18日 午前、則天武后廟と玄中寺を見学。午後、晋祠を見学。夜、「羅貫中」の続きを鑑賞。

9月19日 午前に学術報告会(3名、グループ討論の総括)、理事会、閉幕式。

*

この大会は、事前に「『三国演義』研究」「作者“羅貫中”研究」「百年来『三国演義』研究的回顧」「21世紀『三国演義』研究的展望」というごく大ざっぱな議題が設定され、ある程度議題にそった内容のペーパーが56篇ほど提出されている。内訳は、胡世厚氏の分類によれば羅貫中籍貫研究が2篇、比較研究が4篇、版本・成書研究が6篇、ロジックに関する研究2篇、思想・内容に関する研究19篇、その他19篇である。実際には未参加の研究者の論文も多く、この学会のステイタスが上がってきていることをうかがわせる。

全体会議で報告をおこなった研究者は18名、このほか3カ所の会場でのグループ討論でも活発に意見交換がおこなわれた。

開幕式の三国演義学会会長劉世徳氏の挨拶では、90年代の三国研究を簡単に振り返り、今後学会全体でさらに力を入れて取り組んでいくべき課題として、1. 応用研究 2. 研究上の国際交流 3. 普及と伝播、の3点を挙げられた。マレーシアでの応用研究に関する事例や日本における版本研究の紹介、テレビなどのメディアにも協力を惜しまず三国の物語を広めるよう学术界も努力すべきだという提言など、90年代にこの3点を身をもって実践し、三国の学会をリードしてきた劉会長らしい発言であった。

全体の報告会で興味深かったものはいくつかあるが、今回の大会で最も議論をよんだのが首都師範大学の周文業氏の報告であった。周氏の報告はコンピューターによる『三国演義』研究の可能性について論じたもので、具体的な作業として現在進行中の三国の人物データベースの概要が説明され、将来的には国家か企業から研究費の援助を受け、30種を超える明刊本や毛宗崗本を入力した「版本処理庫」を作り、従来人間がこつこつやっていた版本の異同を調べる作業をコンピューターに肩代わりさせるというスケールの大きい計画を披露された。周氏は文学研究畑の出身ではなく、高級エンジニアの肩書きをもつコンピューターのプロであるが、その専門を自分の好きな『三国演義』の研究に活かせないかと考え、このような構想を持つに至ったのだということである。データベースを作ったという何がわかるのかとか、別の版本研究への応用の可能性などグループ討論でもいろいろと質疑応答があったが、従来、研究環境に恵まれた一部の研究者にしかできなかった版本研究がすべての研究者(といっても今度はパソコンを操作できること、という新たな条件がつくのだが)に開放されるのであるから特に大きな反対意見はなく、周氏の「『三国演義』デジタル化工程」を学会全体でバックアップしていくことに決まった。

喻真栄氏の発表「『三国演義』与邏輯思想規律」は、ロジックの観点から『三国演義』のいくつかの故事を分析したもので、以前なら思想・内容研究に分類されてしまうところだが、前述の胡世厚氏が新たに「ロジックに関する研究」という分類項目をたてたことからわかるように、新傾向の作品論として注目された。喻氏も本業は別にあり、いわば「業余」で『三国演義』に関する論文を書いてこ

られた方である。周文業氏といいこの喻氏といい、そして今回の会議には出席できなかったが韓国・中国でベーカリーを経営する畏友鄭元基氏といい、最近は趣味でやっておられる研究者にユニークな着想が多くみられる。文学研究を生業としている人間もうかうかできないところである。

版本・成書研究では、杜貴農氏の報告「『三国志通俗演義』成書及今本改定年代小考」が反響をよんだ。杜氏は、瞿佑の『帰田詩話』に引かれる元人張憲の「縛虎行」にある「白門東樓」という言葉や、瞿佑が挙げている「布罵曰」という言葉が現存の『三国志平話』には見えないことから、これらはいずれも『三国志通俗演義』(マ)によって作られたものであるとし、それを前提として『三国志通俗演義』は元の泰定3年(1326)前後には完成していたであろうと述べられた。そしてさらに『三国志通俗演義』の4カ所の文字獄の描写は、明初の朱元璋による文字獄の状況が小説に反映されたものであり、これらは明初に羅貫中以外の人物が後から書き加えたものであるとも論じられた。この仮説は、今までの成書年代考とは異なる新しい見解を含んでいるということで大会ではそれなりの評価を与えられたが、現存する『三国志平話』とは異なるテキストを『三国演義』の作者が参照していた可能性もあり、杜説についてはなお検討の余地があると思われる(筆者は『三国演義』の成書過程からみて、原本は明代中頃になって書かれたのではないかと考える。『歴史学事典5』〔弘文堂 1997〕「羅貫中」の項目を参照されたい)。

さて、本来ならばこの学会で一番議論されるべき羅貫中の籍貫問題は、意外にも全体の報告会やグループ討論でほとんど取り上げられなかった。作者羅貫中の籍貫については、『三国演義』の明代のテキストに「東原羅本貫中編次」などあるのを根拠に東原(山東省)の人とする説、『録鬼簿続編』に雜劇作家「太原の羅貫中」に関する条があることから太原の人とする説、浙江慈溪の人趙偕の門人のリストに羅本の名が見えることから浙江慈溪の人とする説、『七修類稿』などに「杭人羅貫中」とあることから浙江杭州の人とする説、太原出身であるが江南に移住したのだとする説などがあり、いまだ定説はないが、このところ劉世徳氏や孟繁仁氏による太原説の攻勢が激しい。特に孟氏は清抄本の『羅氏家譜』から羅貫中と考えられる元末明初の人物を見つけだし、また『尚書』によって「東原」は山東の地名ではなく太原の別の呼び名であるとして、羅貫中太原説を強力にプッシュしている(太原説の諸論考は孟繁仁氏主編『羅貫中新探』中州古籍出版社 1992 に収録されている)。そのため、ホスト役の孟氏や清徐の人々のメンツをつぶす可能性のある議論ははばかれたのであろう。ただ、最後に一度だけ孟氏がこのことについて発言を求められたとき、孟氏は「ここにはいろいろな立場の人がいるから」と自説をその場で述べることは避け、「自分は山西の社会科学学院に来て以来、ずっとこの問題を追いかけてきた。この問題について何が何でも白黒をはっきりつけなければいけないわけではない。太原説を支持する人も東原説を支持する人も、己の信じるところに従って研究を進め、切磋琢磨していけばいいと自分は考えている」と述べられたのが深く印象に残った。

中国の『三国演義』研究で主流を占める思想・芸術性に関する論考は今回も1

9 篇の多きを数える。日本ではこの方面の研究は少なく、筆者もコメントする資格を持たないが、段啓明氏が報告の席上で「外国人は中国の思想・芸術性に関する研究を“看不起”している」と言われたのを聞き流しておくわけにはいかず、「中国と外国とでは研究の視座が異なり、確かに日本や欧米では思想・芸術性に関する研究は少ないかもしれないが、我々外国人は中国の研究を“看不起”しているわけではない」と発言した。ただし中には「関雲長 骨療毒」の場面を取り出していきなり「我々民族の英雄たる気概をあらわしたもの」と決めつける些か乱暴な議論もみられ、取り組むべき課題もあるように思われた。

今回の見学旅行ではあまり三国関係の遺跡をたずねることができなかったが、日程表にもあるように、羅氏の祖塋と羅貫中記念館、三国城を訪問することができた。祖塋及び記念館は地元清徐県の人々と孟氏をメンバーとする羅貫中研究会が中心となって保存及び設立計画を進めてこられたそうである。訪問当時、記念館はまだ完成していなかったが、羅氏の世系に関する資料などがすでにかなり展示されていた。

また夜の「活動」として、今回は三夜にわたってテレビドラマ「羅貫中」が放映された。このテレビドラマは、大原の小説家・シナリオ作家である梁楓氏と龔青氏の共著『羅貫中演義』（北岳文芸出版社 1999）に基づいて制作されており、原作も会議の席上で資料の一として配布されたが、これがまたドラマとともに大変興味深く、配られたその日のうちに読了してしまった。この小説は羅貫中の生涯を描いたもので、羅貫中と女芸人との愛情故事を主旋律にしているという点では完全にフィクションなのであるが、羅貫中を清徐の人とするところや、羅貫中が芝居に興味をもち雑劇を執筆するシーン、また江南に流寓して施耐庵と師弟の交わりを結び張士誠の軍師となって活躍する段、羅貫中が施耐庵と協力して『水滸伝』を書いたほか、『三国演義』、『平妖伝』、『隋唐志伝』などの講史小説を手がけたとする記述など、いずれも孟氏の学説や羅貫中に関する諸々の伝説を素材として活かしており、そういう点から読むとなかなかうまくできた小説であった。残念ながらこれらの説には否定的な立場をとる筆者ですら、小説とドラマをあわせてみると、ドラマの中の虚構が真実なのではないかと思ってしまうこともしばしばで、いいか悪いかは別にして、このメディアミックスの手法により「太原清徐の羅貫中」は全国に浸透していくのかも知れない。

以上、筆者の関心によっていくつかの口頭発表及び論文の内容を簡単に紹介した。

★

この学会の成果は沈氏の理事会報告や胡氏の総括でもまとめられているが、一つは21世紀の三国研究と三国学会のあり方、進むべき方向をめぐって議論がなされたことであろう。そして具体的な研究のレベルではいろいろな手法が模索されはじめていることがわかった。他の古典小説研究界に先んじてコンピューターを利用し新しい研究を進めようという企て - 何が出てくるかは未知数、ただ版本研究についてはデータベース化が実現すればかなりの成果が見込まれると思うが

-、欧米の叙事学や論理学の理論を導入したり、方言研究の成果を用いて新しい地平を切り開こうとする試みなど、三国の諸研究分野で変化の胎動が見て取れる。

一方で、前回の学会に参加したときには見えなかった新しい課題も出てきた。情報化の問題にしても、データベースを構築した上でどうするのかというその先の展望は見えていないし、利用できる条件の整った人だけが先へ進み、情報における強者と弱者の差がますます大きくなることが懸念される（これは三国研究に限ったことではないが）。さらに会議の場で指摘されていたのは後継者不足の問題である。三国研究は他の古典研究に比べ若手研究者の層がかなり薄いということで、学会としてより一層後進の育成に力を注いでいく方針が確認された。確かに今回は若手の参加者が少なかったが、次回以降は三国研究の新世代と様々な学術交流ができるようになることを期待したい。

最後に、討論会を物心両面からサポートしてくださった太原と清徐の関係者の方々に対しこの場を借りてお礼を申し述べたいと思う。今回ほど地元の人々の「必ず学会を成功させる」という意気込みを感じたことはなかった。なお、次の第13回学術討論会は安徽師範大学が当番校となって2000年5月に安徽省蕪湖で開催されることになっている。

以下にこの討論会に提出された論文の題目と執筆者名を列記しておく（括弧の数字は全体会議における報告者の順序をあらわす）。

料 尼芋(遍脅弗寄)(2) ^ 啗訝 議侘 嚙^愁延 議得傍 - 霧彡眉忽處訥 嶺議^眉蒸 〃
葡 荻拭(膨寒芙親垠)(22) 中KK仟弊射議彡眉忽處訥 寫梢
装 弊蟻(嶺忽芙親垠) 袋香嶺汐香深掩
凝 酷蛙(爆敵弗寄)(3) 彡眉忽崗宥沒處訥 〃攪慕式書云個協定旗式深
嵐 非隱(貧今弗寄) 彡眉忽崗宥沒處訥 〃幹恬吭夕深胎
孕 伯坏(芦師弗寄)(4) 煽霧繁麗嚙蕪胆吭 - 壅胎^帽乞疏 〃
孱 鏈伏(爺薯翌忽囂僥垠)(20) 彡眉忽處訥 〃偃並侘蓑議扮腎購狼
卜 凍 (祖廓弗垠)(13) ^彡眉忽 娼舞 〃胎
蛎 防椅(貧今弗寄)(18) 袋香嶺嚙彡邦箇勤 〃
甌 峠群(表廉繁耐竈井芙) 匯周啞吩議垢恬 - 待霧葡荻拭疑仟得丕彡眉忽處訥 〃
泊 窓(牽秀弗寄) 燃霧彡湊峠芝 〃斤眉忽絞並議処授 - 參薨直屎攪嚙帽乞疏律箭
藍 徨錐(牽秀弗寄)(9) 彡眉忽崗宥沒處訥 〃猓晒坪栖岷叭傍
藍 奂遠(表廉縮圖僥垠)(21) 貫彡眉忽崗宥沒處訥 〃欺彡火牝励旗霧處訥 〃 - 惹胎袋香嶺煽霧式傍幹恬鉞廷
奚 措(坪臭弗癡) 帽乞疏、巔茲、望瀧檣嚙埴藍議購狼式風嘉嶺議窟屍
霜 化功(源剩偏鴻窮蕉) 眉忽猓晒壓晚云
巔 猓匍(遍脅弗寄)(12) 旋喘咀蒙利蝕婢彡眉忽處訥 〃寫梢
藍 囁忽(將臭偏猓砢) 胎^眉忽 岷麼議糴擬侘 暨喘繁蜘蛛
才 囁彖(祭謁仇崗一) 袋香嶺絡定咨肖仇冥胎
貧弥 李(署夾寄)(7) 彡眉忽處訥 〃才芋賠竈井猓晒

天剩旗窟(刷臼寄) ヽ眉忽處訥〃埴骸購狼胎
 嚙 將蕃(搥今鯖塚巷望)(17) ヽ眉忽處訥〃嚙貸辞房略号舵
 甌 略嶠、醜 峯崗(18)、車 蹄^{ㄉㄨ}(袋香蕝寫梢氏) 袋香蕝广恬圭互簡囂深裂
 装 瀨(將臭獵晒蕉) 鎚陵廓嚙叫伶惟匍議購狼
 結 徨撰(臭釦溼采弗拏)、幘 竜蕃 ヽ眉忽處訥〃嚙臭釦
 犯代飼健俳健(軀袋帽) 購器袋香蕝議仟冥沫
 醜 茵(袋香蕝寫梢氏)(15) 編胎^{ㄉㄨ}眉忽處訥〃議繁耐來
 蛎 蘇(臭釦芙親拏) ヽ眉忽處訥〃匯蒸；囙日宙亟
 藍 吡嶠(牽戀寄) 胎望瀧榆
 卜 針健(刷臼寄) 胎^{ㄉㄨ}欠竭氏〃議^{ㄉㄨ}協藍綬惟^{ㄉㄨ}買KK - 惹胎袋香蕝議尖僥房^{ㄉㄨ}
 装 海蕃、採 佶苧(州佼 崗一) 霧^{ㄉㄨ}眉忽處訥〃^{ㄉㄨ}冷作準柴婉膚決^{ㄉㄨ}惹胎袋香蕝更房議弘列
 地 蟻鉅(俯拐偏悶個溜)、霧 噴畔(俯拐偏眉忽獵晒寫梢氏)(11)、嫖 募麓(絮相播獵砒侃) 弊射岷住斤^{ㄉㄨ}眉
 忽處訥〃寫梢議叱泣房深/貫^{ㄉㄨ}疑俐膚獵吸注芝〃窺震心查膚絞仇俯拐協蝦議煽霧需屬
 藍 邦箇(寒臼縮園僥拏) 編胎購嚙佗 灸侏晒處延式吭訥
 川 琉糞(耳爽芙親拏) 谷篋幻徨促各^{ㄉㄨ}眉忽崗處訥〃没云嚙硬云深
 互 馴、嫖 蟻乏(逐剩偏眉忽僥氏) 窟屍僥氏議嶮薦蒙泣才單米持自葎逐剩議眉忽唾嚙尚泣秀譜捲曆
 結 羨繫(鴻戀匍噫寄) 幘乞疏遍竈南表岷嬌議汚隈誼弘
 偏 槽(溼廓繫耐鴻毆窮岬) 購巷獵晒壓耐怛議仇了才恬喘
 勁 憩(仟舟弗寄) 燃胎^{ㄉㄨ}眉忽處訥〃繁麗佗 議尖^{ㄉㄨ}晒
 嫖 碗伏(蕝戀硬洩竈井芙) 得^{ㄉㄨ}袋香蕝仟冥〃
 望 激(湊圻偏獵選) 儘嬌袋香蕝 - 窮篇錢僥丞^{ㄉㄨ}袋香蕝〃幹恬獎芝
 藍 溼^{ㄉㄨ}(源剩眉忽僥氏、蒐 奐牽(源剩偏獵選) 寄囑並社枉譌、伶寄吸枉幡絞戰壓舞蜘蛛議臼粒30業叫將120
 業彈泣住祉侃
 袋 蝕囁(冷作跟鶯麗鋼)(14) ヽ眉忽處訥〃蕝議繁麗瞳初 - 嚙^{ㄉㄨ}眉忽崗〃議曳熟寫梢岷匯

上記以外の参加者は次の通り。

鮭 弊搾(采搥芙親拏)(23)、鹵 楸(蕝忽芙親拏)、藍 洗槌(蕝忽忽社夕)、爽 忱畔(叫圭碯慕芙)、爽 肆(爺
 薯弗寄)(5)、嫖 募磐(宥晒弗拏)、藍 芥(采臼芙親拏)、跡 啾(查蕝弗拏)、装 喟措(坪檀硬耐怛弗拏)、驛
 旨耐(仟舟弗寄)、嫖 凰銅(蕝戀硬洩竈井芙)、嫖 胡(搥剩偏鶯麗鋼)、搥 嶠岬(逐剩肩^{ㄉㄨ}獵霧溜)、結 畠
 伏(攪脅鎚揃寮丕)、埴 麟(刷臼弗拏)、袈 祇蓀(仔股弗拏)(8)、伶 裏(芦師弗寄)、爆 竇(酷戀寄)、巔 唱(馴
 統慕芙)、瀧 骂鯖(表叫垢氏僥拏)、瀧 攪伏(磋戀弗拏)、叶 佶攪(源剩偏工窮蕉)、嫖 汚(鯨稀寄僥僥烏)、
 川 扮繁(貧今弗寄)(1)、俯 旺伏(貧今弗寄)、天剩 宗(牽秀弗寄)、遜 啾膿(鬻搥寄)、蛎 科早(侮框寄)、
 書畑 磬岷初(送宥將蓀寄)、伶 薦(采搥唾嚙巷望)、蛎 吩坳(蕝屎寄)(6)、蛎 梁蔣(蕝屎寄)、仔 卵翠(蕝屎
 寄)、署 耐(臼獎寄)(10)、地 訓畔(表廉芙親拏)、週 寄販(表廉芙親拏)、孕 尚茲(表廉寄)、鯛 陬^{ㄉㄨ}(表
 廉硬洩竈井芙)、地 今伏(溼廓購巷寫梢氏)(16)、嫖 写忱(埴晒湊圻僥丕)、剋 高疏(湊圻偏芙親拏)、枉 芦
 溢(表廉硬洩竈井芙)、袈 高勤(賠俾 繁寄)、統 市(蕝慌賠俾 溜)、孕 囁晒(賠俾 傲勤何)、嫖 噴胡(賠
 俾 傲勤何)、袋 屈彊(賠俾 袋香蕝射廷鋼)、爬 鍊垣(賠俾 獵選)